

図柄入りナンバープレートの可能性

◆法を改正して国土交通省が2つの図柄入りナンバープレートの交付を始める

「道路運送車両法及び自動車検査独立行政法人法の一部を改正する法律」が2015年6月に成立したことにより、四輪自動車のナンバープレートを図柄入りのものに交換できるようになった。この制度を利用して国土交通省は17年4月からラグビーワールドカップの特別仕様ナンバープレートの交付を、17年10月から東京オリンピック・パラリンピックのナンバープレートの交付を始めた。この2つのプレートは1,000円以上の寄付金を募る「図柄入り」と寄付金なしの「エンブレム付き」の2種類がある。集まった寄付金は大会開催に必要な交通サービスの改善（バス・タクシーのバリアフリー化等）に充てる。

特別仕様ナンバープレートの例

対象車種		登録自動車（自家用）	登録自動車（業務用）	軽自動車（自家用）
通常のナンバープレート				
東京2020 オリンピック・ パラリンピック 競技大会 特別仕様	図柄入り			
	エンブレム付き			

出所：国土交通省広報資料

◆地域や観光の振興のための地方版図柄入りナンバープレートの交付も準備中

図柄入りナンバープレートは諸外国に先例がある。たとえば、米国ではニューヨーク州は自由の女神やナイアガラの滝を、フロリダ州はスペースシャトルを図柄としたプレートを交付している。これらの中には寄付金を募り、観光促進、環境保護、スポーツ振興などに使用するものもある。日本の図柄入りナンバープレートはこれらを参考に交付できるようにしたものである。

国土交通省は、図柄入りナンバープレートを地域や観光の振興にも役立てようと、魅力ある風景や観光資源を描いた地方版図柄入りナンバープレートの導入も

ハイライト

進めている。そのプレートを交付する地域を17年5月から募集しており、9月15日までにナンバープレート地域名116のうち40の地域が応募を表明している。この募集は9月末で終了し、12月に図柄が提案され、18年10月から交付を始める。

◆原付に続き、四輪自動車でも地方版図柄入りナンバープレートが増えるか注目

図柄入りナンバープレートには懸念がいくつか指摘されている。たとえば、ラグビーワールドカップで交付したプレート16万台のうち15万台が軽自動車用であった。その多くは「(軽自動車の)黄色ナンバーを白くしたい」ことが理由とされている。これに対して、「白いプレートでは登録自動車(普通自動車、小型自動車)と区別しにくく、高速料金の徴収に支障がでる」との指摘がある。また、同プレートは、「アルミ板にラッピングシートを焼き付けた上に塗料を塗っているため、シートが劣化すれば塗料が落ちてナンバーが読めなくなる。そのシートの5年とされている耐用年数にも疑問がある」との指摘が出ている。しかし、料金徴収については、ETC車載器搭載車ならば機械が識別して料金を徴収できるし、非搭載車も職員教育の徹底で対応は十分可能だ。プレートの耐用性も、改善できない問題ではないし、改善を提案可能な業者には新たなビジネスチャンスになる。

四輪自動車に先駆けて原動機付自転車(原付)で図柄入りプレート¹が交付されている。このプレートは、愛媛県松山市が07年に地名表記を「松山市」から「道後・松山市」に変更し、司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」にちなんだ雲型プレートを交付したことに始まる。現在は各地の景勝地や名産品などを図柄に取り入れたプレートが全国473の区市町村²で交付されている。こうした動きが、四輪自動車にも起こり、地域や産業の振興の一助になるか、注目される。【藤井和則】

区市町村が発行した原付用図柄入りプレートの例

秋田県横手市 雪景の中の「かまくら」	東京都文京区 夏目漱石「吾輩は猫である」	静岡県御殿場市 富士山	愛媛県松山市 司馬遼太郎「坂の上の雲」
			

出所：各区市広報資料

¹ 原付などのナンバープレートは、税金の納付先(各区市町村)が独自にデザイン、交付できる。

² 17年8月8日時点、日本経済研究所調べ。